

テーマ	総合原価計算（組別総合原価計算・連産品）							
学籍番号							氏 名	

1. TU製作所では、AとBという異種製品を同一工程で連続生産し販売している。製品原価の計算方法としては、A製品とB製品を組別に計算する組別総合原価計算を採用している。原料費は各組に直課し、加工費は直接作業時間を配賦基準として各組に実際配賦している。原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分するためには先入先出法を用いている。下記の資料に基づいて、当月加工費、完成品総合原価及び完成品単位原価を製品別に計算しなさい。なお、原料はすべて工程の始点で投入され、月初仕掛品と月末仕掛品の加工進捗度はA製品とB製品とも0.5であった。

〔資料〕

① 生産データ

	A製品	B製品
月初仕掛品量	100 個	40 個
当月完成品量	1,600 個	1,400 個
月末仕掛品量	140 個	80 個

② 原価データ

月初仕掛品原価	：	原料費	558,600 円	（内訳：A製品 425,000 円、B製品 133,600 円）
		加工費	469,000 円	（内訳：A製品 369,000 円、B製品 100,000 円）
当月製造費用	：	原料費	12,587,600 円	（内訳：A製品 8,282,000 円、B製品 4,305,600 円）
		加工費	18,580,000 円	

③ 直接作業時間データ

当月実際直接作業時間合計 9,290 時間（内訳：A製品 6,237 時間、B製品 3,053 時間）

④ 販売データ

	A製品	B製品
月初製品在庫量	200 個	100 個
当月販売量	1,500 個	1,350 個
月末製品在庫量	300 個	150 個
当月実際販売単価	20,000 円/個	10,000 円/個

	A製品	B製品
当月加工費	円	円
完成品総合原価	円	円
完成品単価原価	円/個	円/個

授業の感想など	
---------	--

テーマ	総合原価計算（組別総合原価計算・連産品）								
学籍番号								氏 名	

2. 当工場では、材料 X を投入して連産品 A、B、C を生産している。次の資料に基づき、市価法によって各連産品に配賦される連結原価をそれぞれ計算しなさい。

【資料】

- ① 当工場では第 1 工程の始点で材料 X を投入し、第 1 工程の終点で連産品 A、B、C が分離される。そのうち連産品 A 及び B はそのまま製品 A 及び製品 B として売却しているが、連産品 C は第 2 工程で追加加工を施し、製品 D として売却している。

- ② 当月の第 1 工程における完成品量は 3,600kg であり、その内訳は以下のとおりである。なお、月初及び月末に仕掛品はなかった。

連産品 A	1,500kg	連産品 B	1,200kg	連産品 C	900kg
-------	---------	-------	---------	-------	-------

- ③ 当月の第 1 工程における投入原価は以下のとおりであった。

材料費	188,100 円	加工費	164,700 円
-----	-----------	-----	-----------

- ④ 各製品の正常市価および見積分離後加工費は以下のとおりである。

	製品 A	製品 B	製品 D
正 常 市 価	@420 円	@480 円	@840 円
見 積 分 離 後 加 工 費	—	—	198,000 円

	連 結 原 価
連 産 品 A	円
連 産 品 B	円
連 産 品 C	円

授業の感想など	
---------	--